会議結果報告書

1　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（芹沢清水台自治会）
2　日時	平成 30 年 7 月 29 日（日）13：00～14：00
3　場所	芹沢清水台自治会館
4　出席者	（資源循環課）原田副主査、小田副主査 （環境事業センター）安齋担当主査、広田主幹 （芹沢清水台自治会）参加人数：17 人
5　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●有料化を導入した場合、有料袋を市の施設でも取り扱いをしてくれるか。 →藤沢市の場合は、スーパーやコンビニなど民間施設のみの取り扱いとしている。 ●この地域では、スーパーやコンビニがない。 →有料化を導入する場合には、地域性を考慮して皆さまが買いやすいような体制を整えることとしたい。 ●市はコンポストを推奨しているが、コンポストによって生ごみがどれくらい減少したか分かるか。 →皆さまにコンポストを渡した台数は把握しているが、生ごみの減少量については把握していない。今後も畑などに埋めるタイプのものと家庭用の電動式タイプのものについて補助を行い、生ごみの減量化を図りたいと考えている。 ●有料化を導入した場合に選定枝はどうなるのか。 →藤沢市の場合は、燃やせるごみと燃やせないごみを有料化の対象としており、燃やせるごみの中でも全てを有料化の対象とはしていない。なお、藤沢市では剪定枝は資源物として扱い、有料化の対象とはしておらず、ボランティアごみやおむつなどの生活からやむを得ず出てしまうごみについても有料化の対象としていない。 ●茅ヶ崎市、寒川町、藤沢市の市境の中心部に不法投棄をされると、警察もどこが対応すればよいのか分からず、ごみが放置されたままとなってしまうという問題がある。監視カメラもついているが機能していると思えない。また、市は不法投棄で刑事告発した件数なども示してないが、毎日のように不法投棄をされてしまうため困っている。この問題について市はどのように考えているか。 →昨年度では、把握している限り不法投棄で２件検挙されている。他市の不法投棄対策の研究や調査もしているが、監視カメラについても、暗いと人影は見えるが顔は見えず、車は見えてもナンバーは見えないなどで、有効な一手とはなっていない状況である。また、パトロールをするにしても、不法投棄がされた後で、投棄した者が分からないことが多い。有料化や戸別収集を仮に実施した場合は、今以上に不法投棄が増

	加されることが予想されるため、何らかの対策を打ち出さなければならないと考えている。 ●堤十二天最終処分場は２０３３年が使用期限であるが、それは灰が満杯になってしまうということでよいか。 →地元との約束で使用期限が決まっているということで、灰が満杯になってしまうということではない。 ●パッカー車は５０台で１００人体制か。 →４７台で再任用含めて１３０人程の体制となっている。 ●パッカー車には、２名が乗車しているが、助手席にいる人は仕事をしていない。荷卸ろしに１人用意すれば、パッカー車３台を６人で対応しているところは４人で対応できるのではないか。 →パッカー車は、２人か３人で乗車している。ごみを収集している時には、運転手は運転席にいないといけないため、助手席の者がごみを収集している。また、国道など速やかにごみの収集が求められる場所については３人乗車としている。 ●茅ヶ崎市全体の落ち葉についてだが、清水谷の夏と冬の大掃除で落ち葉が４５Ｌの袋で３４４袋となり、市内全部の公園で考えるとおおよそ２０，０００袋程度になると思う。市の関連施設から出る落ち葉が公園の５倍あるとしたら１００，０００袋となり、その内、１０％が常緑樹であった場合、９０％が落葉樹となり、多くの落ち葉が発生することとなる。落葉樹を減らせば焼却量が減るため、常緑樹から落葉樹に切り替えていくのが今後は大事だと考える。 →公園の管理においても、なるべく手のかからない樹木を植えるということが検討されているようである。 ●市は戸別収集をやりたいのだと思うが、導入コストもランニングコストも見えてこない。市として何を努力しているのか知りたい。また、資源物としてどれくらい収入があるのかを教えてほしい。 →年間の資源物の歳入は、おおよそ１億２千万から１億５千万程度となっている。また、有料化や戸別収集の導入を前提としているわけではなく、ごみ減量化に有効な手段であると考えており皆様から意見をいただいている段階であるが、そのコストについては現在調査中である。 ●コストの見込みを示してもらえないならば、有料化や戸別収集についての話を聞く気にはならない。また、コンポストについても市として施策を出しているのに評価をしていないのはおかしい。ごみについてどれくらい減量できているかについて情報をもっと集めるべきである。

●有料化を導入した場合、生活が貧しく有料袋を購入できない人達はどうするのか。
→他市では、生活保護世帯や一定の条件の方達に対しては、無料で有料袋を配布している。

●斎場の焼却灰について、金歯、銀歯が含まれていると思うが収益としているか。
→市民課所管であるため環境部として把握していない。

●焼却灰を縮減する工夫をもっと研究したほうが良い。
→焼却灰の再資源化は炉の種類によって異なる。茅ヶ崎市の炉よりもっと高温で灰を溶かしてスラグ化できるものがあり、茅ヶ崎市でも導入時に検討をしたが、導入コストやランニングコストを勘案して連続式のものとした。現在も、資焼却灰をセメントの材料としたり、道路の路盤材に使用したりなど複数の箇所に資源化をお願いしているが、更なる検討を行っていきたいと考えている。

●燃やせるごみをもう少し細分化したらどうか。
→現在のところは検討していない。

●ポリ袋を全く使用しないとしたらどうか。袋を削減できるのではないか。
→有料化をする際は、袋の素材を環境にやさしいものとするなど十分検討したい。

●紙袋でもよいのではないか。
→耐久性の問題もあるので望ましいものを検討したい。

●事業系ごみに対してお金をとっているか。
→現在、事業系ごみに対して 10kg あたり 240 円でお金を徴収しているが、10ｋｇ未満の場合は、自治会の了承を得た上で地域の集積所に出してよいとしている。集積所に出されている事業系ごみであっても 10kg を超えている場合には料金を徴収している。
●家庭ごみの話ばかりをしているが、しっかりと事業系ごみの減量にも力を入れてほしい。
→家庭ごみと併せて事業系ごみについても十分な対策を行うことを考えている。

●分別に関して分かりにくいものがある。メーカー側に分別しやすい製品をつくってほしいとアピールをしてほしい。
→市町村が集まる協議会において、国や県に意見できる場があるので、そこで今後も働きかけていきたい。

	●有料化を導入した場合、有料袋が色つきであるため中身が見えにくいのではないか？ →他市では、有料袋は色付きであるが透けてみえる仕様となっているので、茅ヶ崎市も有料袋を作る場合には、不都合がない仕様としたい。 ●有料袋の料金設定はどうするか。 →他市では１Ｌあたり 2.0 円と設定している自治体が多いが、2.0 円は、ごみの減量化が進みやすい金額であり、なおかつ、何年か経った後でも意識が薄れない金額であり、市民にも過度の負担とならない金額であると学識者の研究による見解が出ている。そのようなことも参考にし、金額を設定する必要があると考えている。 ●市議会で図る前に今回と同じような説明会を実施するのか。 →今後の方針が出るタイミングで、皆様への説明やパブリックコメント等の実施を予定している。 以上